



在京古高同窓会  
会報

第16号

〒133 東京都江戸川区  
北小岩6-10-1  
在京古高同窓会事務局  
☎ 3672-7015  
FAX 3672-1147  
印刷：(株)ケーヨー

謹しんで新春の

御祝詞を申し上げます

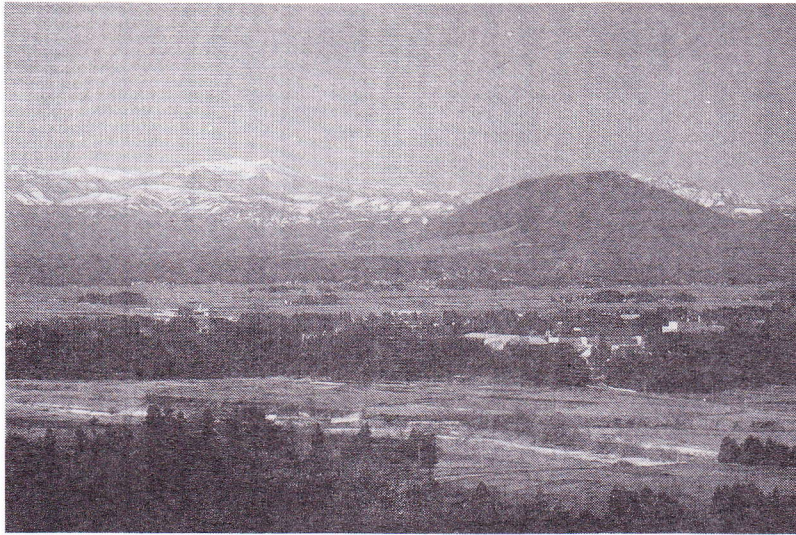
在京古高同窓会会長

伊藤 宗一郎

在京同窓生の皆様には、恙なく新年を迎えられ何よりと存じ上げます。昨年は、不幸にして五千人以上もの死傷者をだした神戸の大地震を始めとして、地下鉄サリン事件を始めとする

数々のオウム真理教関連事件、長期化する経済不況下でのリストラの嵐と就職難の問題、米国における大和銀行事件、沖縄の少女暴行事件に端を発した

在日米軍基地問題と安保問題、高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏出事故等々……大変な一年でありました。



今年もまた、関西地区の復興を始め、経済システムの崩壊による国際信用の失墜など、昨年から叫ばれているように、内外共に処理解決しなければならぬ問題が山積しており日本にとっては依然厳しい状況下にあります。これら内外の諸問題解決の至近に位置する国会議員の私としても皆様の代表としてこれら諸問題の解決にあたり、二十一世紀に向け明るい未来を創造すべく身の引き締まる思いで努力する所存でございます。

会費納入のお願い

今回は、年会費未納の方だけに振替用紙が同封してあります。より活発な同窓会運営のため、納入下さるようお願い致します。既に納入した場合には行き違いですので、悪しからずご容赦下さい。

ともすれば暗くなりがちの世相の中在京の同窓会は、全国初の試みとして一昨年から古川市内4校の合同新年会をスタートさせました。年ごとにその絆を深め、ますます交流の輪を広げていく様を拝見しておりますと、まことに心強い限りです。こんな時代だからこそ、このような絆が大切であり意義深いのであります。更なる発展と大きな潮流となるよう熱望しております。

組織変更で再スタート在京古高同窓会の会長としても八年目を迎えますが、この間、関係者各位のたいなる熱意と努力により全国でも珍しいほど安定した同窓会組織として推移し、会報「螢雪」も今号で第16号を数えるに至っております。会長としてこれ以上の喜びはございません。紙面をかりて皆様に感謝申し上げます。

私がことあるごとに申し上げている通り私の「原点」であります母校古中が明治30年創立以来、本年度で99年目を数え、来年迎える創立百周年への最終ステップの年となります。また、昨年から30年卒の高橋健三君が校長として着任されており期待もまことに大なるものがあります。人間に例えれば白寿にあたるわけで、同窓の皆様とともに素直に喜びを表明したいと思います。この一月二十日に三回目の古川市内四校の合同新年会が開催される予定でございますが、本年も皆様とともに大いに語り合いたいと思っております。年頭にあたり同窓生各位の更なるご発展をお祈りいたします。

第3回市内4校合同新年会の開催日決まる

一月二十日(土) 高田馬場平安閣

平成八年度の古川市内四校の合同新年会は、一月二十日の土曜日午後二時から高田馬場「千代田平安閣」で開催されることに決定しました。

この会は、全国初の試みとして東京はもとより地元大崎からも大きな期待と注目が寄せられ、一昨年の一月にスタートしたもので、今回で三回目となります。前二回を見る限り、交流の輪は期待通りの広がりを見せ、他の耳目を集めるに相応しい大イベントとして定着しつつあります。

今年の記念講演は、作家として活躍中の大森黎(小山玲子さん・昭和26年女子高卒)にお願いしています。テーマは「共に生きる」というテーマでお話し下さる予定となっております。

「ポランティア」というと、欧米では社会生活の一部として日常的に行われていきます。こういった考え方がどうして根付いたのか、浅学非才の徒にはわかりませんが、キリスト教精神に基づく思想的背景と全く無関係ではないと思われまます。

これまでのわが国における「ポランティア」の活動状況は、まだまだ欧米の内外で篤志活動をしてきたというのが実状でしょう。しかし、最近の国際化の流れの中で国際貢献問題等で海外におけるポランティア活動にスポットがあてられたり、先の関西大震災でもポランティア活動する若者たちが多く見られるなど、最近になってようやく日本人にも「ポランティアの精神」が浸透しつつあるようです。今後ますます「奉仕活動」や「福祉活動」を志

願する者が増えるように思われますので、タイムリーで興味深い話になると思います。

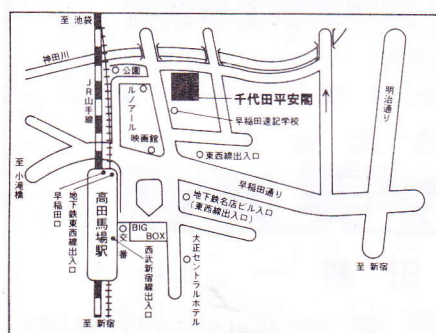
また、今回は地元の古川市、岩出山町、JA(農協)の協賛で、大崎地方のミニ物産展を開催する予定です。どんな方法でどの程度の規模で催すかは、現在検討中ですので会場に着いてからのお楽しみということにして下さい。

▼日時 平成八年一月二十日(土曜日)  
▼場所 高田馬場「千代田平安閣」  
新宿区高田馬場二一六―十  
電話 三三〇七五六一  
JR山手線、地下鉄東西線の高田馬場駅下車、徒歩二分

▼会費 八、〇〇〇円  
▼講演 「共に生きる」  
女子高昭和26年卒 小山玲子さん(作家・ペンネーム大森黎さん)

▼催物 大崎地方のミニ物産展その他

案内図



# 在仙古高同窓会に招かれて

在京古高同窓会副会長 春田 紘 輔

昨年、十二月三日の日曜日、仙台市労働福祉会館で開催されました在仙古高同窓会第46回総会に出席してまいりました。本来は、片平事務局長が出席予定のところ、都合により私が代理で出席いたしましたので、そのご報告を申し上げます。

その日の仙台は、早朝に雪が降ったのか所々に残雪が残っており、寒さの厳しい日でしたが、八十余名もの出席者があり大盛況でありました。在京の同窓会から伊藤会長も出席されており来賓祝辞の予定となっておりますが中野田町で秋の叙勲で授章された方々の祝賀会に出席するという事で開会に先立って祝辞を述べられ早々に退出されました。

総会は、公平副会長の司会で始まり早坂会長が議長となって会務報告など通常通りに進められ、最後に、永年功労者ということで、旧制中学41回卒の方九人への記念品の贈呈がありました。記念品の贈呈は、早坂会長からひとりひとり手渡されたために、大変時間がかかってしまいましたが、受け取る方は、多分六十六、七歳だと思われませんが皆さん本当に嬉しそうにされていたのが大変印象的でありました。

次いで、「母校の現況について」と題して古高の現校長である高橋健三氏による記念講演に移りましたが、時間が足りなくなってしまう約二十分間という短い時間ではありましたが、高橋学校長は、簡潔に要領よく教育基本論から母校の現況について話をしてくれました。その中で、一寸驚いたことは宮城県立公立高校86校中、国歌斉唱と国旗の掲揚が出来ない学校が三校だけ

あって、古高はその内の一校だというお話でありました。初めて聞く話であり、母校の活力が今一つ上がらないのもこの辺りに原因があるのかな？と感じました。また、本部の事務局から第二体育館の建設については全額県費負担となったので、百周年記念事業協賛会の事業からははずれ、創立百周年の記念事業は、記念ホールの建設案で検討中であるとの説明がありました。

# 名簿委員会が発足

昨年の十一月十一日に行われた代表幹事会において、55年卒の亀井明さんから「総会でも新年会でもどんな人が参加するのか、卒業年度や出身地だけではよく分からない。何をしている人なのか、勤務先名とか業種とかもっと詳しい情報が欲しい」という意見が出ました。この意見に対して、「もっともだ」という声も圧倒的に多く、「名簿も不明確になってきたし、先のことをごまかして名簿委員会を発足させたらどうか」という提案がなされ、過半数の賛成を得て、名簿委員会が正式に発足いたしました。委員長は40年卒の佐藤啓三さんにお願いして、補佐役に44年卒の伊澤正雄さんと亀井明さんが選ばれました。

各学年の幹事の方は、名簿委員会の方からの依頼がありましたら、ご協力下さるようお願いいたします。

一昨年の秋、初めての旅行会を開催しながら、昨年は当部会の準備不足によって旅行会を実施することができませんでした。初回に参加された方々や楽しみにしていた方々には深くお詫び申し上げます。今年度は十分に企画の時間をさいて、より充実した旅行会にすべく努力しています。今年から旅行のプロ中鉢泰平さんという心強い見方もできましたので、今度こそ「乞う！ご期待」といきたいところです。

旅行部会として、現在までのところ今年度の旅行会は実施時期だけ5月の中旬から下旬にかけてを予定しております。場所等につきましては時期が参りましたらご案内を差し上げます。

名簿委員会が発足したことで、在京古高同窓会では、早坂会長からひとりひとり手渡されたために、大変時間がかかってしまいましたが、受け取る方は、多分六十六、七歳だと思われませんが皆さん本当に嬉しそうにされていたのが大変印象的でありました。次いで、「母校の現況について」と題して古高の現校長である高橋健三氏による記念講演に移りましたが、時間が足りなくなってしまう約二十分間という短い時間ではありましたが、高橋学校長は、簡潔に要領よく教育基本論から母校の現況について話をしてくれました。その中で、一寸驚いたことは宮城県立公立高校86校中、国歌斉唱と国旗の掲揚が出来ない学校が三校だけ

# 旅行部会からのお知らせ

# 第八回在京経済懇談会開催される

昨年の十月二十六日、渋谷区の日本団体生命株式会社において、在京で活躍している経済人三十人が招かれ、第八回の大崎地方出身在京者経済懇談会（古川市・古川商工会議所が主催）が催され活発な意見交換が行われた。

これは「東京や関東近県に在住して活躍中の大崎出身の経済人と郷土の行政や農協・商工・経済人関係者が相互交流をして、故郷に対する意見や提言を聞きながら地域づくりに反映しよう」と毎年東京で開催しているもの。

交流会では、主催者が市や町の現況について説明。これに対して在京経済人側から「郷土の町づくりや人づくり、教育環境や都市基盤の整備など」の問題についてのふるさとに対する熱いメッセージが寄せられた。

なお、来年は主催者側が在京の経済人を地元大崎に招き実施することに決まった。なお、在京古高同窓会関係の出席者は次の通り。

- 伊藤 宗一郎（昭和16年卒業）
  - 半田 実（昭和22年卒業）
  - 鈴木 大 吉（昭和23年卒業）
  - 遠山 仁 一（昭和25年卒業）
  - 加藤 忠 忠（昭和25年卒業）
  - 佐藤 進（昭和26年卒業）
  - 春田 紘 輔（昭和27年卒業）
  - 高橋 陽 一郎（昭和28年卒業）
  - 片平 司 朗（昭和31年卒業）
  - 長沼 三 郎（昭和32年卒業）
  - 田口 正 一（昭和33年卒業）
  - 小嶋 進（昭和47年卒業）
- 以上十二名

# 諸官公庁 指定塗装工事業者

神奈川県知事許可(般-62)3987号 マスチック施工協会会員  
(社)日本塗装工業会会員 塗装工事一式 請負

株式会社

# ツタ美装社

代表取締役 角田 耕 一 (昭和44年卒)

川崎市川崎区渡田2丁目11番4号 電話 044(333)4712番(代)  
FAX 044(355)8145番

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

# 株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル  
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前  
小売部 (エコノミープラザ・ダックス)  
電話 (3732) 77000  
卸売部 (3739) 24684  
FAX (3739) 72334  
不動産部 貸ビル・貸マンション

# わが校の名物教師達

## 予告編

昭和45年卒 畠山英洋

Part I

京同窓会の会員の皆さんには、その世代毎に強烈な印象に残る先生が必ずいるはずで

この誌面をかりまして、編集委員会より古高伝説「我が校の名物教師達」の原稿を募集いたします。先生の秘密の話(時効済み)やエピソード、綿名の由来など何でも結構ですので、事務局までご送付下さい。字数の制限はいたしません、出来れば写真(責任をもって返却します)を同封して下さいとありがたいです。紹介する先生がダブった場合は特集を組みますのでダブっても構いません。

ちなみに小生の時代、昭和42年の入学時から昭和45年の卒業時までを思い返してみると次のようになる。

ドイツーご存じ高橋養先生のことです。我々が入学するチョットまえまで履修科目であったドイツ語を教えたからかとの説や土一揆の他に諸説があり由来はわかりません。インパクトのある風貌(ほとんど坊主頭に近い刈り上げで、「みんなの髪が無くなった頃に髪を伸ばす」といっていたが、昨年会った時と同じであった。)独特のしゃべり「…となる訳ね」と印象派に属するといふ書きの文字など我々の時代では最大のキャラクターであった。我々は倫理社会と政治経済を教わったが、脱線することしばしば：話術の天才。大御所。

タカトシー高橋俊雄先生のことです。氏名の省略形(同じ高橋先生が多かったためもあるが、アダナのパターンはこの形が多い)。斉藤良治先生の後をうけ柔道部の顧問となり、柔道部黄金期を築いた数学の先生。コワモテだが面倒見のよい熱心な人であったが、奉職中病に倒れ残念ながら亡くなった。

ちなみに、小生も公私ともに大変お世話になった先生である。(合掌)

秀夫先生ー高橋秀夫先生。大変解り易く教えてくれた優秀な数学の先生。当時は奥さんが女子高の先生をしており仲の良い夫婦といった感じでよく二人でいるのを見かけた。仲が良すぎたか後に女子校へ転任。

カンテルー菅野照雄先生。この先生も古高名物に相応しいユニークな人で、棟方誌功をもっとまん丸くして乱杭歯にした感じの風貌と短軀で太鼓腹の体型をもち、授業中以外はタバコをくわえっぱなしのヘビースモーカーで歯は真っ黒の乱杭歯(先生ごめんなさい)メガネは丸メガネで牛乳瓶の底。夕方になると目が見えなくて、生徒を杖がわりに使っていた。本を読むときは目にくっつくほどなので、授業中寝る者多し。「おめえら、バカだからな…」が口癖の好漢。漢字の先生で、本校の卒業生ではないが人望がある。まだ居るらしい?。

タルッコー早坂崇先生のこと。名はビヤダルII体型からきていると思います。短足(ゴメンナサイ)のわりにいつもズボンを胸まで上げつるてるに、必ず生徒と同じのゴムソウリ履きで胸を張っている姿が思い浮かびます。数学を教わったが、ベクトルだの虚数だの何がなんだかさっぱり分からなかった。後輩の間では「タルッコに教わったら一浪覚悟(私が云ったんじゃないですよ!聞いた話です。)」という格言まであるという。ちなみに当時合宿中の朝校庭でゴルフをする先生を見かけた。一球打っては走りまた一球と：チョコマカと：。ゴルフがまだ一般的でない時代です。

画伯ー実戸先生のこと。単なる美術教師II画伯ではなく、風貌も実績も画伯と呼ぶに相応しい先生。アル中だったのかアル中を装っていたのかは不明。職員会議などで先生方同士紛糾状態となると突然立ち上がり「中庭の金魚はどうしてるかな…」などと云ったりして争ってる当人達をも煙に巻くという愛すべき人であったが、残念ながら鬼箱にはいる。(合掌)

余談ですが、先生の弟子わが同期の門田君は、素晴らしい才能を発揮して童話作家・立原えりかの挿し絵を一手に引き受けた、あたたかい絵を描いて活躍していますよ。

ボボブラジルー佐藤信雄先生のこと。到底日本人とは思えない色の黒さと顔が当時の人気プロレスラー・ボボブラジルにそっくりだったところからついたのだが、ご二人を見たことのある人なら即納得する。すぐ鉄拳をふるう体育の先生であったが、サッパリとした気性で陸上部の顧問。

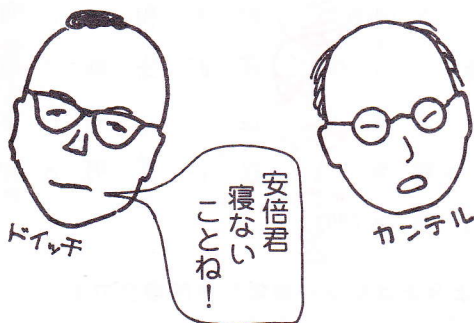
ナマクラー沼倉公先生のこと。これはもう名字をもじったものだが、ヌーボーとしたところなど言い得て妙である。体育の先生で専門は陸上だったように思うが、長年にわたって野球部の顧問をつとめ現在も在職中である。我々の時は、夏の甲子園宮城県予選の決勝でヤクルトにいたデブ・八重樫の仙台商業に負けた。今もって残念であるが、当時のショート近藤が沼倉先生の下で野球部を指導しているというので甲子園初出場を期待する。

阿部雄一郎ー直接教わったことはないが、「無礼者!、親不幸者!」と叫ぶので有名な先生である。ちなみに小生も授業中パンをつるして下の教室の反

応を感じながら遊んでいたところ下の教室が阿部先生の授業で、(こちららも化学の阿部先生)いきなり教室のドアを開けて「無礼者!」の洗礼を受けたことがある。当方化学の阿部先生は、何で怒鳴り込まれたのか分からずキョトン…。

パープー渡辺毅先生。当時の流歌手パープ佐竹に顔がソックリであったことからついた綿名で現代国語を教えていたが後に女子校に転任。

その他に思いつくだけでもアヒル(野村広吉)、イガリ(猪狩常雄)、カンバラ(上原統一郎)、サイゼン(斉藤善雄)、増田、金原、栗原、清野、梅津先生や母校百周年で頑張っている横山寛勝先生等々、沢山いますが紙面の都合により割愛します。ここに挙げただけでも錚々たるメンバーで、前後の二十年以上は共通の話題に出来ることでしょう。これを参考にして、皆さんが在校当時の先生を思い出し、後皆さんが書き送って下さるだけです。



# 謹んで新年の

# お慶びを申し上げます

大崎の野の一角に立ち、船形、葉菜、栗駒と連なる奥羽の山並みを眺めるとその雄大さと美しさに、心洗われる思いがする昨今。

昭16 伊藤宗一郎

古川中学を卒業し半世紀。石炭、石油ウランのエネルギーを探鉱しに、世界各地を巡った時代を回想する年齢になった。同窓諸氏頑張ろう！

昭22 半田 實

同窓会の総会も新年会もいつもいつも先約とかち合って欠席が続いている。誠に残念の極み、そろそろ仕事を整理していく年になった。

昭18 渡辺三男

「天の時、地の利、人の和」  
賀 春

昭53 高橋昭彦

いちよう求める旅 楽しきや 至る所に 出会いありしか。艱難辛苦を乗り越えての一人旅一万km行脚完行。首鼠殿両端は…?

昭33 田口正一

「山茶花のつぎつぎ咲きて  
こぼれ散る」

子や孫の来訪を心待ちしている昨今である。

昭9 多藤省徳

阪神大震災、オウム教事件等、物騒なことが続きました。今年はずっと平和で静かな年でありませう祈っております。

昭15 小山 豊

年の始めに外国旅行や自分史等を作る諸々の計画を立てるが、忙しさにかこつけて毎年計画倒れのものが多い。今年こそ頑張ろうと思っております。

昭34 宍戸志智

十二支の初の年、今年こそ景況の回復をねがっていますが、少しはよくなりそうですね。政治も再編に踏み出す年です。子年生まれ昭17 高橋淳夫

昭31 高橋淳夫

「人事管理」を勉強して、毎月研究会にも参加します。働くことに生きがいを感じるのですが、人生最大の幸福と考えているからです。

昭15 師 勝夫

不況の時代は、いかに多くの情報を得ることが重要です。同窓会、同級会、旅行会等々、情報交換の場として大いに利用しましょう。

昭41 小杉誠輝

昨年は、サマージャンボから有馬記念まで全てが紙屑に…。今年も懲りずに「一攫千金を」と、狙いをナンパーズにしぼっている。

昭45 皇山英洋

昨年の明るい話題といえば野茂とイチローの活躍だけとはさびしすぎます。今年も「もっと明るく」と祈らずにはいられません。

昭53 高橋誠一郎

全世界五十回程度歩いて参りました。国内はほぼ全面歩いてみました。古高の卒業生だったことに今更ながら懐古の念にひたっております。

昭37 中鉢泰平

昨年暮れに、古川市が大崎市となり、古高も大崎高校となった夢を見てしまった。いいのか悪いのか気になるが、あってもいいなと思ったりする。

昭27 春田紘輔

三六会(中36回卒業)の同期会が過般作並温泉であり、出席者14名。年毎に参加者が少なくなり、楽しい思い出話にも淋しさを感じました。

昭12 佐藤恂一

日本百名山は年齢分の51座登頂済み。今年には四阿、皇海、燧、妙高・火打、戸隠、焼・乗鞍、赤石岳の九座に挑戦予定。

昭37 千坂孝夫

同期の皆様お元気ですか。今回の合同新年会に合わせ同期会も行いますので是非ご参加の程。

昭37 佐藤八一郎

世紀末になると決まって終末論が出てくるが、核実験、環境破壊、天変地異と重なってくるとチョット心配。地球からの警鐘か？先輩諸兄々々もご油断めさるな。

昭45 菅原 強

「思難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出す、希望は失望に終わることはない。」を信条としています。

昭5 永澤幸七

来る20日の4校合同新年会では、同期生とも会えることを楽しみにしております。みんな参加して！…こんな機会めったにないよ。

昭54 高橋 朋

## 新年明けまして おめでとうございます 昭和32年卒同期会有志

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 相 沢 成 憲 (古 川) | 佐 藤 公 哉 (真 山) |
| 青 羽 勝 利 (中新田) | 佐 藤 満 行 (大 衡) |
| 石 川 繁 (鳴 瀬)   | 穴 木 邦 夫 (瀬 峰) |
| 犬 飼 靖 光 (岩出山) | 高 橋 清七郎 (鳴 子) |
| 加 藤 謙 助 (古 川) | 高 梨 利 通 (大 貫) |
| 加 藤 昭 七 (北 浦) | 竹 谷 靖 夫 (古 川) |
| 草 刈 次 美 (宮 沢) | 長 沼 三 郎 (小野田) |
| 川 口 勝 (北 浦)   | 松 野 健 (小野田)   |
| 佐々木 勝也 (川 渡)  | 三 神 良 雄 (中 埴) |
| 佐々木 悟 朗 (鳴 子) | 水 上 忠 彦 (古 川) |

## 明けまして おめでとうございます 在京「三一会」有志

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 浅 野 平 男 (色 麻) | 熊 谷 正 俊 (古 川) |
| 生 亀 功 (池 月)   | 佐々木 寛 (中新田)   |
| 石 川 勝 夫 (鳴 子) | 佐 藤 勝 (古 川)   |
| 石 堂 十六男 (長 岡) | 菅 原 陸 郎 (古 川) |
| 大 内 一 正 (中新田) | 鈴 木 和 夫 (古 川) |
| 大 石 隆 一 (田 尻) | 萩 沢 法 雄 (清 滝) |
| 奥 村 信 良 (敷 玉) | 益 子 剛 (色 麻)   |
| 尾 崎 章 (富 永)   | 松 谷 嘉 男 (古 川) |
| 片 平 司 朗 (古 川) |               |

いよいよ今年には卒業40周年記念同期会です。

# 同期会の報告

古高三期会(昭和26年卒業)

古川・芙蓉閣で同期会を開催

昭和二十六年卒 遠藤 惇

昨春秋、九月十五日の敬老の日?に「古高三期会(昭和26年卒)」の同期会が古川会場の芙蓉閣で在京の十数名を含め、出席者八十余名を集め盛大に催されました。

我々の「古高三期会」は三年おきに開催され、仙台と古川とを交互に会場にして開催されるのだが、今回は古川ということもあって大勢の参加者を数えた。

## 子年を迎えて

昭和三十三年卒 渡辺吉郎

昨年の七月八日に行われた在京古高同窓会の総会で、高橋新校長の同級生ということもあり十人の参加者を集めようやく「面目躍如」というか、結果を出すことができました。それまでは出席率が芳しくなく、汚名をかせられていた我々三十年卒の面々・仲間達でありましたが、母校の高橋校長を含め十名が集まって、その汚名を返上することが出来たのです。

前号の紙面で、「十一月下旬の再会を約束」と記しましたが、某氏と相談した結果、「はじめから大勢集めようとすると長く続きませんよ」と忠告をうけ、求心を某氏にと思いつつ十二月十四日に、三名で新橋田村町の某所で再会しました。何とその時、十一月の十八日、松島海岸・大観荘で開催された同期会の話に花が咲き、某氏曰く仲間数人と珍道中の旅に行ってきたとのことでした。いま私は、ぜひ、この仲間が合同新年会に出席してくれて、会を盛り上げてもらいたいものだと思いに願っております。

本年は、我々仲間同期の干支・子年であると同時に還暦の年でもあり、サラリーマンは定年退職を迎える年でもあります。我々にとって大きな節目の一年であります。今私は、仲間達に向かい「心の健康・体の健康に留意してこの一年を過ごし、第二の人生の門出に相応しい年にしましょう。」と呼びかけたいと思います。

## 昭和37年卒同期会「みんなの会」開催

卒業後初めての同期会、33年振りに鳴子で感動の再会!



昨年の秋、九月二十三日～二十四日にかけて一泊二日で、我々の心の故郷である鳴子温泉ホテル「ますや」において恩師、高橋養、岡田敏、笠原清一、鈴嶋攝男の四人の先生を迎えて、何と三十数年振りに同期会を開催することが出来ました。

当日は何かと多忙な時期にもかかわらず、約五十名が一堂に会し、言葉に尽くせぬほどの感激のうちに、盛大な同期会が行われました。

開催の時刻が近づくとつれ、不安と期待と懐かしさの入り交じった様子で次々と姿を現した同期の面々は、受付役をかって出てくれていた高橋健一君や佐藤八郎君、菅原幸輔君等の顔を見るや、開口一番、「見覚えがあるんだけど、あんた誰だっけ?」などという言葉を発していたが、すぐに「オー、

イヤー、しばらくだなー」を連発。会が始まり、残念ながら早く逝ってしまった同期生に黙禱を捧げ、ついで恩師から心の籠もった、貴重な挨拶をいただきました。さらに、会場を引き受けて下さったホテルますやの社長である同期生高橋忠彦君の挨拶。この間一同神妙でありましたが、宴会に入るや方々に囲炉裏を囲むような輪ができ瞬く間にそれぞれが語り部の小世界に没頭し、部屋は喧騒の渦となってしまいました。

進行役の小生としては、それでも気を取り直して、各自の近況報告などをお願いしたのですが、聞いているのはいないのか自分たちで話す方に夢中な様子だったので、途中で断念し、自由に楽しんでいただくことにしました。

必ずしも会らしい形式で進みませんでした。これが主催者側としては、これ以上の喜びはありません。

中鉢泰平 記

思い想う

「旧制」  
教育制度について

昭和55年卒 亀井 明

新制古高もかなり末の方の卒業生にとって「旧制」ははるか昔のこと、もはや単なる歴史的事実としてしか写らないのが実情であり、また、たいていの若い世代にとって「旧制中学」は今の高校であるといった程度の認識しかない現状のなかで旧制・新制の区別なく組織されている同窓会で「旧制」がどのような位置づけだったのか考えしてみることも必要だと思ふ。

戦前の旧制中学への義務教育からの進学率は全国で15%前後であったという事実をまず知る必要がある。地方においてはもっと低かったと考えられるので、比率という点で見ると、現在の国立大学への進学率とほぼ同じと見ることが出来る。旧制においては、エリートか否かの区別は実に中学卒かどうかであったということが出来る。逆に考えると、現在30%~40%も大学へ進学するようになれば、それは大正時代の高等小学校への進学率とほぼ同じであり、旧制の人間から見れば現在の大学卒は昔の中学卒に及ばないと捉えることは全く当然ということになる。旧制卒の先輩が「新制の質が…」というこ

とも口にされることもあるが、それもまた実感としては当然と考えられる。また、旧制中学の教師の社会的な地位の高さも特筆されるべきであろう(夏目漱石の「坊ちゃん」で、「中学教師たるもの、そばやだんごなどを食うな」と小言をいわれていることを想起)。

東大絶対ではなかった時代  
現在では、大学は東大を頂点とした富士山型のピラミッドを形成しているが、旧制においては必ずしも東大が唯一の頂点とはいえず、他にいくつかの頂点が存在した。近年複線型の教育制度云々といわれているが昔はそうだったわけである。

エリート性の高さという点で圧倒的だったのが「陸軍士官学校」「海軍兵学校」という軍の学校であった、その上の「陸大」「海大」ともなれば1クラスの半分が大匠クラスという学年もあつたらしいので、東大と比較しても圧倒的エリート校であった(当時の軍人の社会的地位の高さを今の自衛隊といっしょにはいけない)。

また、高等商業学校(高商)のビジネス界におけるエリート性も高く、26歳にして巨大商社のロンドン支店長ということもあつた。東大の法学部以外の学部、他の帝大卒より圧倒的に有利であった。

また、出世の必要のない地方の旧家の長男などの場合、地元の師範学校を卒業して家業のかたわら教師をやるというパターンがあつた。昔は長男は出世競争に加わらなかつたので、地方の長男で優秀な人材は師範学校にいたということになる。現在の教育大学の水

「ふる・る・さ・と・考」

昭和18年卒 渡辺 三男

「ブナの声を聞いてみたい」  
私は、旧高倉生まれ、ふる里を離れて、もう50年にもなる。この私が毎年7月近くになると、心がワクワクしてきて落ちつかない。毎年小学校時代の同級会の案内がくるからだ。そして、余程の事情がない限り参加することにしている。同級生達と語り合っているとき、私の心は、一直線に50年以上前に遡ってしまう。

残念ながら、旧古中の同級会には、まだ参加できないでいる。昨年10月に「旧古中42回卒業生古希を祝う会」の案内があつたが、先約会合のため参加できなかった。あとから、近況コメント集が送られてきたが、ときどき当時の卒業アルバムを脇におきながら読み返している。

準では考えられないような優秀な人材が集まっていたことになり、これも一つの頂点といえた(また、学費がほとんどただということもあり、貧困層の優秀な人材が集中したという理由もあつた)。

温故知新  
過去のことを現在の価値観で判断するのは、「一種の「アナクロ」であり、正しい理解のためには新世代側の「温故」が重要である。新旧の世代がいっしょの組織であるからこそ、コミュニケーションのために、若い世代は「温故」を重要とこころえる必要がある。また最後に、旧世代の先輩方へは「知新」のお願いも付け加えさせていたきたい。

50年経った今、鳴瀬川の水は、昔の10分の1位に減ってしまつて昔の面影はない。道路もすっかり舗装され、雪も全くといってよいほど積もらなくなつた。田んぼは、日本の食糧自給率が先進国で最低だといわれているのに、あちこち歯が抜けたように休耕田が散在している。農業のせい?であろうかタニシやドジョウはもういない。人間にとって心地よく便利になつたのだから、人間以外のものを犠牲にしての便利さのような気がして、都会の縮図を見ているようで、そこからは、幼なじみの顔はなかなか見えてこない。50年前のなつかしい思い出を知っているブナの声を聞いてみたい。

その昔・・・  
江戸の経済を支えた郷土のお米  
東京、その前身である江戸庶民の

経済を支えたのは、実は郷土のお米であつたというのは、あんまり知られていない。

・・・  
当時は、仙台米といわれており、実に江戸庶民の主食の3分の2を占めていたというから、郷土のお米の功績はまことに大きいといわねばならない。

鳴瀬川や江合川、北上川などから舟で、或いは馬車で石巻に運ばれ、そこから千葉の銚子の港に運ばれ、そこで川船に積み替えられて、利根川をさかのぼる。関宿というところから江戸川に入り、それから荒川に入り、木場などの運河を通じて江戸市中に運ばれたといわれている。

もっとも、当時の仙台米といわれていたものは、今のササニシキやひとめぼれといった美味いものではなく、〈下の上〉位のクラスといわれていたから、文字どおり一般庶民の食べるものであつたという。ちなみに一番おいしい米は加賀米で、以下は熊本のお米、近江の江州米、名古屋の尾張米などとなる。そして、これらの米は殿様や大名そして吉原の花魁などが食していたといわれている。

・・・  
ともあれ、郷土のお米が江戸の台所を支えてきた功績は大変なもので、今日東京の歴史を考える上で大いに誇つてよいのではないかと思ふ。

江戸とわが郷土は、コメで結ばれていたし、江戸川や荒川と鳴瀬川や江合川は・・・ヘコメで結ばれていた。私どもは、いま・・・などで結んだらよいであろうか?!



思い想う

平成7年度大学合格者数

大学別	合格者数	7年度卒	過年度卒
国公立大学	44	10	34
国公立短大	7	6	1
私立大学(短大)	369	121	248
文部省管轄外の学校	3	2	1
合計	423	139	284
前年度(最終)	461	159	302

平成七年進学状況

大学別	合格者数	7年度卒	過年度卒
弘前大	2(0)		
秋田大	2(1)		
岩手大	2(0)		
東北大	8(3)		
宮城教育大	4(0)		
山形大	3(1)		
福島大	8(2)		
茨城大	2(1)		
宇都宮大	1(0)		
埼玉大	1(0)		
千葉大	2(0)		
東京外語大	1(1)		
電気通信大	2(0)		
高知大	1(0)		
青森公立大	1(0)		
会津大	1(0)		
高崎経済大	1(0)		
都留文化大	1(1)		
神戸外語大	1(0)		
合計	44(10)		
国公立短期大	5(4)		
東北医歯薬短期大	1(0)		
弘前大医歯薬短期大	1(0)		
合計	7(6)		
北海通情報大	1(0)		
札幌学院大	7(1)		
札幌大	10(4)		
函館大	1(0)		
八戸大	1(1)		
八戸工業大	8(2)		
岩手医科大	1(0)		
富士大	7(5)		
盛岡大	4(2)		
秋田経法大	7(5)		
仙台大	3(2)		
石巻専修大	30(16)		
東北学院大	78(30)		
東北工業大	19(5)		
東北芸術工大	1(1)		
東北薬科大	1(1)		
東北福祉大	10(3)		
いわき明星大	1(0)		
奥羽大	1(1)		
流通経済大	1(1)		
関東学園大	2(0)		
白鷗大	2(0)		
明海大	1(0)		
目白大	1(0)		
足利工業大	3(0)		
東京国際大	1(0)		
城西大	1(1)		
埼玉工業大	1(1)		
獨協大	2(0)		
文教大	5(1)		
駿河台大	3(1)		
亜細亜大	1(1)		
東京工科大	1(1)		
千葉商科大	1(0)		
千葉工業大	1(0)		
青山学院大	1(0)		
明星大	1(0)		
北里大	2(0)		
慶應義塾大	2(2)		
杏林大	1(0)		
立教大	2(0)		
國學院大	2(1)		
国士館大	2(0)		
駒沢大	6(1)		
工学院大	1(1)		
成城大	1(0)		
芝浦工業大	4(1)		
成蹊大	1(0)		
専修大	2(0)		
大東文化大	4(0)		
拓殖大	5(0)		
玉川大	1(0)		
中央大	3(1)		
帝京大	1(0)		
東海大	10(1)		
東京経済大	2(2)		
東京工芸大	3(0)		
東京成徳大	1(0)		
東京農業大	3(1)		
東京理科大	3(1)		
東京造形大	1(0)		
東京電機大	1(0)		
東洋大	6(1)		
二松学舎大	2(1)		
日本大	11(1)		
法政大	3(0)		
武蔵工業大	2(1)		
明治大	5(1)		
立正大	3(0)		
和光大	1(0)		
早稲田大	3(1)		
神奈川大	8(2)		
関東学院大	4(1)		
神奈川工大	3(1)		
湘南工科大	1(1)		
朝日大	1(0)		
金沢工業大	1(1)		
山梨学院大	3(1)		
名古屋商科大	1(1)		
西東京科学大	1(0)		
長岡造形大	1(1)		
日本福祉大	1(0)		
関西大	2(1)		
龍谷大	2(0)		
同志社大	1(0)		
立命館大	4(0)		
大阪経法大	1(0)		
大阪経済大	1(0)		
成安造形大	1(1)		
仏教大	2(2)		
京都外語大	1(0)		
松山大	1(0)		
小計	20(6)		
合計	32(11)		
防衛大	1(0)		
宮城職業能力開発短期大	2(2)		
その他	7(4)		
合計	10(6)		
国公立大学	44(10)		
国公立短大	7(6)		
私立大学	362(117)		
その他	10(6)		
総合計	423(139)		

※ 数字左は合格者、カッコ内は現役の合格者数です。

母・校・は・い・ま

このごろの古高生徒会

生徒会副会長 佐々木一憲

私達古高生徒会執行部の一年の活動は、四月の対面式に始まります。これは入学したての一年生の緊張をほぐすと同時に、古高という学校を肌で感じてもらうという行事です。これに続いて四月には前期定例生徒大会であります。内容は、その年の各部・各委員会の予算や四月の末に行われる対策高定期戦、六月の県総体などについてですが、その他にも、その年ごとに色々な議題があります。例えば、最近では「バイク免許取得問題」や「茶髪・ピ

アス問題」など、生徒の権限の拡大を求める議題が多いような気がします。また、一年で最も大きな生徒会活動は、やはり九月の古高祭でしょう。今年、この中で生徒会は三つの仕事をしました。一つは、一階の手荷物預かり所、二つ目は「古高九十八年の軌跡」と題した展示、そして残りのひとつは喫茶店「一刻館」でした。その中でも喫茶店「一刻館」はなかなかの人氣で客がとぎれることなく、来年以降のよい参考になったと思います。

もう一つの大きな生徒会活動といえ、十一月の後期生徒大会があげられます。内容としては、各部の年間活動報告を始め、四月の生徒大会で取り上げた内容のその後の状況などです。その他の活動としては生徒会報の発行があります。その時々々の句の話題や先生方からの寄稿などで構成され、二年半の間に25回ほど発行しています。また、他校と協力する活動も行っています。九月の県総合文化祭や十月の大崎地区総合文化祭への参加、数カ月一度行われる、古川市内の他校との座談会がそれにあたります。私達は、一年の間にこのような活動を行っています。お分かりいただけただけでしょうか。これからも私達生徒会はこの経験を来年に生かし、更に活発な活動を行っていきたくと思っています。

記念ホール建設が本決まり!

創立百周年記念事業の目玉

昨年末の大崎タイムズの記事により、母校創立百周年記念事業の推進母体である古川高等学校創立百周年事業協賛会の総会において、かねてより懸案であった記念ホールの建設および募金計画等についての基本案が事務局より提案され、ほぼ原案のとおり承認されたこととす。これによりようやく「記念ホールの建設」が本決まりとなったようです。

これまで母校では、平成9年に迎える創立百周年を控えて、平成2年に結成された記念事業を主催する協賛会が中心となって、記念式典や校史の編纂および刊行など様々な事業計画を進めてきました。が、目玉となる「記念ホール」については、これまで県教育委員会に柔・剣道場が入るホール付きの第二体育館の建設を要望してきたのですが、理解が得られなかったようです。県教育委員会の結論としては、体育施設の部分については県費で建設するが、ホールについては最後まで理解が得られず、協賛会が集める資金で建設することとなったようです。

これら記念事業の事業費については総額三億円の予定で、この内二億円を募金でまかなうということとす。募金活動の方は今春から同窓生を中心に開始する予定だそうです。近々、在京古高同窓会の方にも報告かたがた協力の要請があると思われれます。

政治、経済、官僚、国民、すべて戦後の3代目国がおかしくなる

積水工業株式会社

S28年卒 金子 康

目黒 3793-5711 仙台 (022) 235-7009

くすり、健康食品のご相談は ぜび当店へ!

有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩沢法雄 (昭和31年卒)

〒202 東京都保谷市柳沢 3-2-45 TEL & FAX 0424-61-9334

文字情報入出力  
コピーサービス  
テレホンカード  
トレース製図  
完成図書  
総合印刷

**ケーヨー**は情報化時代の未来を拓く  
あなたのパートナーです

取締役社長  
早坂清吉

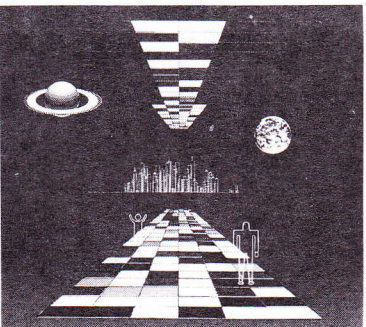
完成図書作成 総合複写印刷 CAD プレイトカート

**株式会社 ケーヨー**  
〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-5  
☎ 03-3242-0191 ・ FAX03-3242-2061

税理士 青沼康男  
不動産鑑定士  
(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805  
TEL 03-3452-2004  
FAX 03-5476-8006

つくりまします。  
快適な環境を  
人と都市の



**住友電設株式会社**

社長 三浦澄能  
(昭和24年卒)

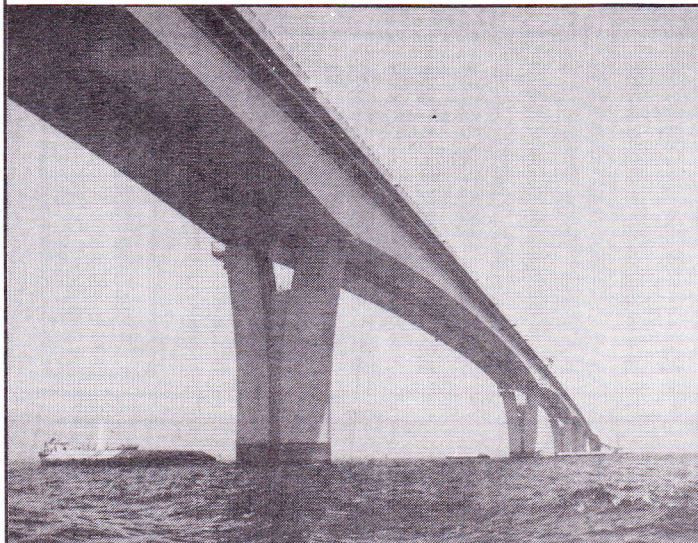
東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(代)  
大阪市西区阿波座2丁目1-4 ☎(06)537-3400(代)

世界の教育・福祉・保育などあらゆる分野を尋ね27年。  
実績を生かし、さらに、研修と旅学を結び合わせ  
貴社の個性を生かす旅づくりのお手伝いを。

株式会社 インターナショナル ヒューマントラベル  
代表取締役社長 中鉢泰平 (昭和37年卒業・鳴子町出身)  
〒160 東京都新宿区西新宿3-5-12 新宿第2トーカー1F(ワシントンホテル隣り)  
TEL&FAX 03-3345-6035

**三峯工業株式会社**  
(S・31卒)

代表取締役 片平司朗  
東京都江戸川区北小岩6-10-1  
TEL. 03(3672)1146(代)  
FAX. 03(3672)1147



東京湾横断道路 当社施工区間

技術と品質で21世紀に飛翔する

**株式会社 宮地鐵工所**

代表取締役会長 遠山仁一 (S.25卒)  
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号



【グランドステージ大森(25戸)】

**Century 21** 古高47年卒  
代表取締役 小嶋進  
(株)ハウジングセンター TEL 03(3738)5111

〒146 東京都大田区東矢口3-2-1  
東京都知事(5)第41620  
社団法人住宅産業開発協会会員